コ ラ ム

HONDURASより
新潟応用地質研究会の皆さんへ

大 西 吉 一*

現在、私は海外プロジェクトの一員として愚妻とともに中米ホンジュラス国のコマヤグア市に滞在しています。2月上旬、ホンジュラスへの出向を命ぜられ、4月15日に新潟を出発して以来もう7カ月が過ぎました。最近になりようやく気候・慣習・スペイン語などになれ、工事も今のところ工程に沿って順調に進んでいますが、初めの数カ月は戸惑うことばかりでした。

ホンジュラス国は、日本では新聞やTVで報道されることもなくあまり知られていない国だと思い、私が今までに知り得た範囲でこちらの実情を報告することにします。

1. ホンジュラスの概要

国　　名：ホンジュラス共和国
　　La Ropublica do Honduras
　　(英文名　Ropablic of Honduras)
面　　積：11万2,088km (日本の1／3弱で、北海道と九州の合計よりやや小さい)
人　　口：483万人 (1988年)、人口密度39人／km
独　　立：1821年9月15日 (旧宗主国、スペイン)
首　　都：テグシガルパ　人口60万1,200人 (1984年)
人種構成：スペイン系白人と原住民の混血91%、現住民6%、黒人2%、白人1%
言語・宗教：スペイン語　カトリック
気　　候：海岸部は高温多湿な熱帯性であるのに対し、標高1,000m程の高原地帯は比較的しのぎ易い。
主要産業：バナナ、コーヒー、綿花、木材、砂糖、牛肉、電力
通　　貨：レンピーラ (Lempira)　1US$=5.4L
時　　差：15時間あり日本の正午は、ホンジュラスでは前日の夜9時です。

1) 自然概況

ホンジュラス共和国は、北緯13～16度・西経83～89度に広がる中米のほぼ中央に位置します。北はカリブ海とホンジュラス湾、東から南をニカラグア、南は太平洋、南西をエルサルバドル、そして西はガテマラによって国境が定められています。

地形は北東および南の海岸平野を除き、全体の65%は山岳地域で森林に覆われています。山岳地帯でも高峰は認められず、最も高い山はCerros de Culmiで2,590mです。この山岳地域の高原や盆

* ㈱日さく新潟支店

地群が好ましい自然環境であり、農業・林業の中心として村や町が形成されています。一方、東側の低地は沼沢地域で定住には不向きな自然環境であり、未開のまま残っている。

地質は、プレカンブリアから古生代に堆積した比較的安定した地塊が基盤をなしている。この地塊は南へ向かって傾動し、その上位に主として中生代から第４紀まで続いた火山性堆積物が覆っている。

気候は、雨季（６～11月）と乾季（12～５月）に区分され、年間降水量は1,300㎜でその80％は雨季に降るようです。年間平均気温は24度ですが、乾季には35度前後まで上昇することがあります。

2）社会・経済概況

ホンジュラスは、中米５カ国（ガテマラ・エルサルバドル・ニカラグア・コスタリカ・ホンジュラス）の共同経済圏の一員として、第２位の面積と第３位の人口を有する。古くからの農業国で、全人口の60％が農業に従事しており、トウモロコシ・米・コーヒー・バナナなどの熱帯産物のほとんどを産出しています。

農業を主体とするためか経済成長率はここ数年ほとんど横ばいで、ガテマラやコスタリカに比べて非常に遅れているようです。経済的に不安定であるにも拘らず、物価は比較的安定しているとのことです。

3）略　　史

スペインの侵略以前はマヤ文化圏の一画をなし、それなりに栄えたようでコパンに中規模のマヤ遺跡があります。コロンブスの新大陸発見（1492年）後はガテマラ総督領に編入されていた。

給水施設の完成に喜ぶ子供達。

1821年９月に独立し、一時メキシコに併合されたが1824年に中米連合を構成した。その後中米連合の崩壊に伴い、1831年に共和国として独立した。

独立後ホンジュラスは、国境紛争のためガテマラ（1871年）、ニカラグア（1894、1907年）と戦争をしたことがある。1981年の大統領選挙から実質的な民主体制となっており、基本的には反共・親米路線をとっている。それまでは軍事政権が続クーデターが頻発していたそうです。

4）日本との関係

1932年に外交関係を樹立して以来、第２次世界大戦の期間を除き、友好関係にあり政治・外交問

題はないと言われています。ホンジュラスにとって日本は主要な貿易相手国となっています。日本からの輸入品は、自動車・電気機器が大半を占め、こちらで見かける車の80%がニッサンかトヨタで、ＴＶ・オーディオ機器はほとんどが日本製です。一方、日本への輸出品は、コーヒーが最も多く（全体の75%を占め）、次いでエビ（15%）が多いそうです。

日本からの経済・技術協力は、過去10年間の累計でみると中南米諸国中第７位であり、無償資金協力では第２位となっています。現在、青年海外協力隊員は80数名派遣されており、我々を含む在留邦人（150名程）の50%を占め、中南米諸国中第１位です。

このアーチ式ダムはダム高200ｍの発電用ダムです。ホンジュラスは山岳地形と豊富な水を利用した水力発電が盛んで、電力輸出国になっています。

2. 工事の概要

私が携わっている給水施設工事は、ホンジュラス国のほぼ中央に位置するコマヤグア盆地一帯で進めています。この盆地は、標高が約600ｍで東西の幅が10～15㎞、南北の長さが35～40㎞の矩形状で、周辺は標高2,000ｍの山地に囲まれ急斜面をなしています。この盆地内に10万人が生活し、その46%の人達が非給水地域に住んでおり、この非給水地域へ地下水を水源とする生活用水を供給するのがこの工事の目的です。

コマヤグラ盆地の地質は、洪積世の湖沼堆積物と扇状地堆積物よりなり、これらの地層が主要な帯水層を形成しています。

工事の内容は、井戸を89本（６”井戸が27本・４”井戸が64本）掘さくし、自動制御方式で給水するシステムを27カ所建設するものです。現在日本から派遣されている社員は９名で、現地で採用している技師・会計士・秘書それに作業員の合計は200名程います。低開発国にしては勤勉な人達が多く、10時頃まで残業することもしばしばあります。彼らの仕事振りをみていると、予定していた来年の10月よりは早く帰国できそうです。

応用地質研究会への報告ですから、もっとこの会に相応しいことを書くべきでしょうが、幹事の安藤さんから原稿を依頼され時に地質図や断面図を挿入しそれらしい報告の原稿を作成しました。しかし、ＪＩＣＡとの工程打ち合わせの折りその主旨を話したところ当分の間（何時頃までかは不明）はプロジェクトに関する資料を使っては駄目だと言われてしまいました。従って、つまらない報告になってしまいました。

最後になりましたが、研究会のご発展をＨＯＮＤＵＲＡＳより祈ります。